新しいデザインを生み出せる「記念碑づくり」の魅力

愛知県名古屋市　㈲石直

造園の経験を活かし記念碑づくりを展開

1898（明治31）年に創業し、これまで四代にわたって石材業を営んでいる有限会社石直（愛知県名古屋市／鬼頭恵助社長）。同社に記念碑づくりの依頼が寄せられるようになったのは、先代にあたる鬼頭社長の父親が造園業に力を入れ始めたことがきっかけだったという。

「父は東京農業大学で造園について学んだ後、造園関係の大きな会社で働いた経験があります。おそらく、その頃から石以外のことにも興味があったのでしょうね。記念碑づくりも、造園業の一環として、全体の景観や空間デザインを提案する中で始まったのだと思います」

その後、四代目の鬼頭社長と、同社でともに働く鬼頭社長の弟も、父親と同じ東京農業大学に進学。鬼頭社長は卒業後、横浜市内の大手園芸会社に勤務し、現場や営業の仕事を経験した後、家業に入った。

現在、同社では鬼頭社長を含む6名体制で現場業務を担い、墓石事業とともに、住宅やマンション、神社仏閣、学校関係の樹木剪定・庭の管理などといった造園業も手がけている。

そうした中、記念碑の製作・施工については、「数年前に当社のウェブサイトを新しくしたところ、墓石の問い合わせも含めて、多くの相談が寄せられるようになりました」と鬼頭社長。近年では三菱重工・宇宙事業部から依頼を受けたロケット打ち上げの記念碑や、国の重要文化財に指定されている富部神社（名古屋市）の大修造本殿竣成記念碑など、愛知県内・県外を問わず様々な依頼を受け、年間数基のペースで記念碑の製作・施工を手がけている。

造園業も展開している同社ならではの強みは記念碑そのものだけでなく、周囲の景観づくりまで含めて提案できることにある。設置場所の環境に合わせた記念碑のデザインや植栽の配置など、空間全体を設計できることに加え、公共工事を含む様々な石工事の実績も、依頼するお施主の安心感に繋がっていることだろう。



㈲石直が製作・施工を担当した「豊田浄水特定土地区画整理事業・竣功記念碑」



朝日インテック㈱大阪R＆Dセンター設立を記念して建立された謝恩碑の製作・施工ならびに碑周辺の修景工事も㈲石直が担当した




鬼頭恵助社長

仲間との連携で広がるものづくりの可能性

同社の記念碑づくりは、お施主の想いや要望を丁寧にヒアリングすることから始まる。

「何のためにつくるのか。何を伝え、何を後世に残したいのか。そうしたイメージを詳しく聞き取り、それを具体的な形にした複数のデザイン案を提案していきます。

また、字彫りについても詳しい仕様書を作成しますし、施工時に使用するアンカーの長さや基礎の仕様など、細かな部分までしっかりとお伝えするようにしています」

文字が細かくなる場合には、石ではなくステンレスに彫刻することもある。その際は、日頃から付き合いのあるステンレス業者に製作を依頼しているそうで、こうした地域の様々な事業者とのネットワークも、同社の強みの一つとなっている。

「中学校の記念碑づくりでは、知り合いに動画の製作をお願いしたこともありました」と鬼頭社長。記念碑にQRコードを設け、読み取ると生徒が校歌を合唱した音声が流れたり、学校生活を送る様子が動画で見られるような仕組みを考案したという。

「70周年の記念碑に校歌を彫刻したのですが、せっかくなら、その曲を実際に聴けたり、当時の学校生活の様子などわかるほうが嬉しいじゃないですか」

このように同社では、案件に応じて、それぞれの得意分野を持つ信頼できる事業者と連携しながら、ものづくりを進めている。そうした協力体制が「これまでつくったことのないものづくりに挑戦してみたい」という鬼頭社長の前向きなチャレンジ精神を支えている。

人脈と事業の広がりが新たな仕事を生み出す

同社では今から10年ほど前に先代から鬼頭社長へと代替わりし、その後、業績は着実に伸びているという。その背景には、鬼頭社長が地域団体などでの活動を通じて築いてきた人脈や、人と人とのつながりを大切にしてきた姿勢もあるだろう。

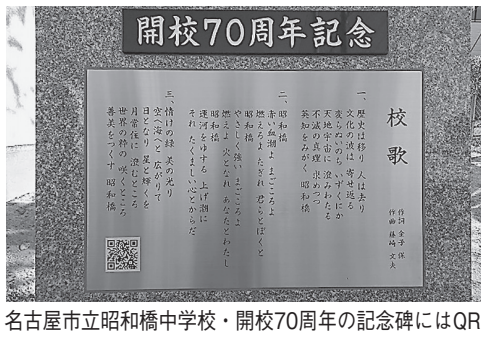
鬼頭社長は、異業種交流団体「名古屋商工会議所 若鯱会」などの活動と共に、地元のPTA活動にも熱心に取り組み、名古屋市立小中学校PTA協議会の会長なども歴任。こうした活動を通じて築いた人脈が、仕事に繋がるケースも少なくないという。

「地域団体での活動だけでなく、高校時代には中京大学附属中京高校の剣道部で主将を務めていたこともあり、そこからの繋がりが活きることもあります。また、東京農業大学の卒業生の中には全国各地で造園業を営んでいる方も多く、大学の先輩や同期、後輩との繋がりが仕事に活かされることも少なくありません」

さらに、記念碑の仕事が後に新たなお墓づくりの依頼に繋がったり、反対に、剪定などの造園の仕事をきっかけに記念碑づくりの依頼が舞い込んだりすることもある。これまでに培ってきた人脈と共に、墓石から造園、記念碑、各種石工事まで幅広く手がけられる同社の対応力が、こうした仕事の広がりを生み出し、会社の成長を支えている。



三菱重工業 宇宙事業部からの依頼で「H-IIA/Bロケット打上げ輸送サービス全機成功記念碑」の製作・施工も



名古屋市立昭和橋中学校・開校70周年の記念碑にはQRコードを設け、読み取ると生徒が校歌を合唱した音声や学校生活を紹介する動画などが流れるような仕組みも。

「石じゃなければダメだよ」

鬼頭社長は取材時に、記念碑づくりには大きなやりがいを感じていると話してくれた。

「何より、地域の多くの方の目に触れる場所に、かたちとして残ること。もちろんお墓もそうですが、まず、それがすごいじゃないですか。それに、お墓と違う点でいえば、『こうしなければいけない』という決まりがあまりないので、自由度が高いことも魅力ですね。

先ほどお話した動画に繋がるQRコードもそうですが、こちらのアイデア次第で、さらに可能性が広がっていく。大変なことも多いかもしれませんが、自分はそういうことが大好きで、記念碑づくりならではの面白さだと思っています」

さらに同社では、今後のビジョンの一つとして、石を使った新製品の開発にも取り組んでいきたいと考えている。

「石という素材は、用途という面から考えても、きっと何か新しい活用法があるはずなんですよね。『石で何かできないか？』ということは、以前からずっと考えているんです」

そう話す鬼頭社長は、記念碑づくりにおいても、石という素材の魅力を積極的に伝えていきたいと今後の展望を口にする。

「記念碑は、つくった人たちの意思や想いを後世に伝えていくためのもの。やっぱり、そういうものは『石じゃなければダメだよ』と思っているんです。このような考え方は日本人だったらきっとDNAに刻み込まれているはず。そこに響くような提案を心がけていきたいと思っています」

石の魅力を伝えていくことで、潜在的なニーズを掘り起こしながら、記念碑づくりの新たな可能性へと繋げていく。鬼頭社長の言葉からは、石という素材への深い愛着と、これからも新しいものづくりに積極的に取り組んでいこうとする前向きな姿勢が感じられた。



「富部神社・令和の大修造本殿竣成記念碑」も同社が製作・施工を担当。三面の扇形にした印象的なデザインとなっている。



同社が製作・施工を担当した「愛知商業高等学校・創立100周年記念碑」